



検討の観点と内容の特色

教育基本法 第2条との関連

教育基本法 第2条	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	1 探究的な学習の流れや考察のしかた、誤差のとり扱いを解説し、実験データなどの事実に正対する態度の育成を図りました。 	1年 巻頭③～p.4、247 2年 p.297 3年 p.311など
	2 観察・実験などの探究的な活動において、探究的な活動への取り組み方や実験結果に正対する態度の育成を図りました。	1年 p.84～89 2年 p.50～55 3年 p.12～15、94～100など
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	1 自ら学び、考える態度の育成のために、探究的な学習の流れを具体例とともに示し、主体的にとり組めるようにしました。	1年 巻頭③～p.4 2年 巻頭③～p.4 3年 巻頭③～p.2など
	2 各節の導入には主体性を高める活動を設定し、生徒が自ら疑問をもって学習をスタートできるようにすることで、個人の価値を尊重することができるようになりました。	1年 p.50、148 2年 p.120～121、188 3年 p.154、208など
	3 自ら探究的に学習ができるように、仮説を立てる場面や考察の流れを補助する箇所を設けました。また、科学の有用性、科学と日常生活、職業などとの関連を読み物で紹介しました。	1年 p.137、153～156、225、241 2年 p.221、260～266 3年 p.168～172、224～227など
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	1 話し合いのしかたや発表のしかたなどをとり上げ、他者と協力する態度や他者の意見を尊重する態度の育成を図りました。	1年 p.4 2年 p.4 3年 p.2など
	2 考察場面や話し合い場面など、グループや男女で協力して活動する場面を設け、自己の意見を科学的な根拠をもって主張しながら、他者の意見を尊重する態度の育成を図りました。 	1年 p.24、110 2年 p.52、129、261 3年 p.19、278など

教育基本法 第2条	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	1 身近な生物の観察などの体験を通して生物の多様性を知ることと生命を愛護し、自然環境を保全しようとする態度の育成を図りました。また、さまざまな生物の事例をとり上げて生命のつながりを考えさせ、生命尊重の意識を高めるようにしました。	1年 p.16～17、20～21、48～49 2年 p.100～101、141、159 3年 p.88、108～111など
	2 地域の地層の観察などの体験を通し、自然環境を保全しようとする態度の育成を図りました。また、1年巻末の「ジオパークへ行こう!」で自然環境への意識を高めるようにしました。	1年 p.190～191、233、248～249など
	3 気象や天体の継続的な観察を通し、自然環境への関心を高めるようにしました。	2年 p.8～9、168～169 3年 p.6など
	4 身近な自然環境の調査や自然の恵みと災害の調査を通して、自然環境を保全しようとする意識の育成を図りました。	3年 p.264～267、272～275など
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	1 「校外施設を活用しよう」で日本の科学技術への興味・関心を高めるようにしました。 	1年 p.258 2年 p.306 3年 p.322など
	2 日本に生息する生物などの写真、資料を多数掲載し、我が国の生物的環境に関する理解を深められるようにしました。	1年 p.14～15、32～33、54～55など
	3 日本列島の火山や地層などの写真、資料を多数掲載し、我が国の地学的環境に関する理解を深められるようにしました。	1年 p.194～195、204～205、220～221など
	4 活躍する日本人研究者をコラムの題材としてとり上げ、日本の科学技術への関心を高めるようにしました。	1年 p.187 2年 p.165、194、289 3年 p.71、125、187、245、307など
	5 さまざまな物質の利用や、発電・通信などの科学技術について、日本の事例を多くとり上げることで、日本の科学技術への関心を高めるようにしました。	3年 p.278～283、286～287、290～291など

学習指導要領との関連

中学校理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

学習指導要領の趣旨が適切に反映されているか。

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
学習指導要領に示す「目標」「内容」「内容の取扱い」に一致しているか。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領総則に示す「教育課程の役割」「教育課程の編成」「教育課程の実施と学習評価」「生徒の発達の支援」などを踏まえて編集しました。 2 学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取扱い」に示された事項の全てについて不足なくとり上げ、エネルギー、粒子、生命、地球の4つの概念に沿って単元を構成しました。また、季節的な学習の適期に配慮し、身近な自然をとり上げながら計画的に学習できるようにしました。 	全体

学習指導要領の目標達成のための手立てが的確に示されているか。

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(1) 自然の事物・現象についての理解が深められ、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な知識・技能を身に付けるための工夫がなされているか。	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元の初めや本文に「これまでに学んだこと」を配置し、小学校や下位学年で学んだ既習事項を想起できるようにしました。 2 関連する内容に「参照ページ」のマークを付すなど、個々の知識がつながり、科学的な概念を形成することができるようにしました。 3 つまづきやすい内容には「例題」「練習」を設定したり、「考え方」で丁寧な解説を示したりして、基礎・基本をおさえられるようにしました。 4 公式や重要事項には「ここがポイント」欄を設け、ポイントをおさえられるようにしました。 3年p.217 	<p>1年 p.12, 84 2年 p.168, 244 3年 p.51, 248など</p> <p>1年 p.176, 204 2年 p.77, 110 3年 p.294, 301など</p> <p>1年 p.113, 158, 2年 p.174, 191 3年 p.149, 212など</p>
	<p>各季節での南中高度の考え方</p> <p>① 地球の傾きは23.4°なので、公転面と赤道面が接する角度も同じ23.4°となる。</p> <p>② 右図のように、北緯35°と23.4°の間にいるので(35°-23.4°)で表される。よって、夏至の日(北緯35°)の南中高度は(90°-(35°-23.4°))=78.4°となる。</p> <p>③ 左図のように、北緯35°と23.4°の間にいるので(35°+23.4°)で表される。よって、冬至の日(北緯35°)の南中高度は(90°-(35°+23.4°))=31.6°となる。</p> <p>④ 赤道の南中高度は90°-(0°+23.4°)となる。</p>	<p>1年 p.43, 78 2年 p.173, 239 3年 p.147, 217など</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 5 「? (課題) に対する自分の考えをまとめよう」で、各節の結論を自分の言葉でまとめられるようにしました。また、巻末に結論の例の一覧を示すことで、節どうしのつながりを意識できるようにしました。 6 章末「学んだことをチェックしよう」、単元末「学習内容の整理」は本文への参照ページを、単元末「確かめ問題」は巻末に解答と参照ページを示すことで、復習しやすくしました。 	<p>1年 p.151, 229, 250 2年 p.19, 113, 274 3年 p.133, 283, 314など</p> <p>1年 p.61, 182, 254 2年 p.34, 222, 302 3年 p.262, 304, 317など</p>

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(2) 科学的に探究するために観察・実験などを行うとともに、思考力、判断力、表現力の育成が重視されているか。	<ol style="list-style-type: none"> 1 「問題発見 レッツ スタート!」「仮説 ? (課題) に対する自分の考えは?」「構想 調べ方を考えよう」「分析・解釈 考察しよう」「検討・改善 解決方法を考えよう」など、探究の過程に直結した活動を配置することで、科学的な思考力、判断力、表現力が自然に育成できるようにしました。 2 観察・実験においては、手順と結果を同一見開き上に配置しないようにし、生徒が自ら規則性を見いだして理解できるようにしました。 3 各節の後半には「ふり返り 探究をふり返ろう」の活動を設定し、探究の過程の妥当性について考えられるようにしました。 4 各節の終盤には「活用 学びをいかして考えよう」の活動を設定し、学習したことを使って学びを広げられるようにしました。 5 各単元に1つ程度「じっくり探究」の節を設定し、生徒どうしの対話の具体例や「理科の見方・考え方」を適宜示すことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるようにしました。 6 単元末には「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」を設け、全国学力・学習状況調査型やPISA型の問題にも対応できるようにしました。 	<p>1年 p.22~25, 152~157 2年 p.50~55, 214~217 3年 p.224~227, 254~259など</p> <p>1年 p.87, 179 2年 p.111, 153 3年 p.48~49, 193など</p> <p>1年 p.89 2年 p.21 3年 p.100, 172, 226など</p> <p>1年 p.33, 79 2年 p.176, 282 3年 p.26, 274など</p> <p>1年 p.84~89, 232~235 2年 p.128~133, 260~266 3年 p.16~21, 154~159など</p> <p>1年 p.64~68, 182~186 2年 p.80~84, 222~226 3年 p.120~124, 304~306など</p>
(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされているか。	<ol style="list-style-type: none"> 1 巻頭や各単元・各章・各節の導入などにおいて、身のまわりの事象について考えさせる場面を多く設けることで、興味・関心を高め、主体的にとり組めるようにしました。 2 各単元・各章の学習前と学習後に同じ問いかけ「Before & After」を設定し、学ぶ意味や有用性、生徒自身の成長などを実感できるようにしました。 3 各節の導入「問題発見 レッツ スタート!」によって、問題に気づき、目的意識をもって主体的に学習にとり組めるようにしました。 4 「おてがる科学」では手軽にできる観察・実験やものづくりなどの事例を掲載し、学習内容の理解を深められるようにしました。 5 各節中のコラム「まちなか科学」「なるほどね!」「お仕事図鑑」や、各単元末のコラム「社会につながる科学」を学習内容に関連させて適切に配置することで、日常生活や社会と学習内容とが自然に結びつくようにしました。 6 巻末「校外施設を活用しよう」において、全国各地の動物園や水族館、博物館などを紹介することで、身近な地域にある施設を活用した学びにとり組めるようにしました。 	<p>1年 巻頭①~②, p.190~191 2年 p.88~89, 168~169 3年 p.144, 190~191など</p> <p>1年 p.10~11, 159 2年 p.12~13, 171 3年 p.246~247, 295など</p> <p>1年 p.74, 194 2年 p.120~121, 280 3年 p.278, 296など</p> <p>1年 p.77, 214 2年 p.60, 275 3年 p.259, 283など</p> <p>1年 p.26, 129, 225 2年 p.85, 221, 271 3年 p.91, 293, 307など</p> <p>1年 p.258 2年 p.306 3年 p.322など</p>

検討の観点と内容の特色

今日的な課題への対応が図られているか。

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(1) 家庭学習や個に応じた指導、家庭や地域との連携への配慮がなされているか。	① つまづきやすい内容には「例題」とその考え方や、「ここがポイント」を示し、生徒が自学自習する際に役立てられるようにしました。また、つまづき解消に効果的なQRコンテンツを併用して学習できるようにしました。	1年 p.107、158 2年 p.46、191 3年 p.27、173など
	② 「例題・練習(節内)」→「学んだことをチェックしよう(章末)」→「学習内容の整理(単元末)」→「確かめ問題(単元末)」→「活用問題(単元末)」のように、スモールステップで基礎・基本の習得ができるようにしました。	1年 p.113～114、132～136 2年 p.259、283～288 3年 p.212、218、240～244など
	③ 章末「学んだことをチェックしよう」の各問題にチェックマーク欄を設け、一人ひとりが自分の定着度を確認できるようにしました。	1年 p.44、206 2年 p.62、146 3年 p.262、276など
	④ 「科学の本だな(巻頭)」や「おてがる科学(本文)」、「学びを広げよう 自由研究(巻末)」、「校外施設を活用しよう(巻末)」、「デジタルコンテンツを活用しよう(巻末)」などによって、一人ひとりの興味・関心や理解度に応じて学習した内容を深められるようにしました。	1年 p.5、21、242～243 2年 p.5、306～307 3年 p.3、308～309、322～323など
	⑤ 育成を図る資質・能力は単元ごとの色で区別された活動の枠に示すとともに流れを追いやすくすることで、誰もが探究的な学びができるようにしました。	1年 巻頭③～p.3 2年 巻頭③～p.3 3年 巻頭③～p.1など
(2) カリキュラム・マネジメントに関して、他教科や総合的な時間との関連が適切になされているか。	① 社会科や数学、技術・家庭、保健体育など、他教科で学習する理科と関連の深い内容については「(教科名)で学ぶこと」として示し、より深い理解につながるようにしました。また、自社の他教科の教科書紙面をQRコンテンツとしてご用意し、他教科の学習内容を具体的に確認できるようにしました。	1年 p.62、75 2年 p.218、276 3年 p.272、301など
	② 巻末「学びを広げよう 自由研究」では、さまざまな数理的な知識・技能を使って考える題材を紹介し、STEAM教育の一環としてとり組めるようにしました。	1年 p.242～243 2年 p.290～291 3年 p.308～309など
(3) 職業観が適切に育成されるように、キャリア教育に関する工夫がなされているか。	① 本文の節中コラム「お仕事図鑑」では、さまざまな職業に就いている人の仕事と学習内容とを関連づけてとり上げ、生徒の意識が自然と職業に向かうようにしました。	1年 p.26、59 2年 p.29、221 3年 p.91、153など
	② 単元末コラム「社会につながる科学」では、科学が社会においてさまざまな職業で役に立っていることをとり上げ、科学の有用性が感じられるようにしました。また、QRコンテンツとして実際に働いている人へのインタビュー動画をご用意し、職業観が適切に育成されるようにしました。	1年 p.187、241 2年 p.85、165 3年 p.245、307など



2年p.5

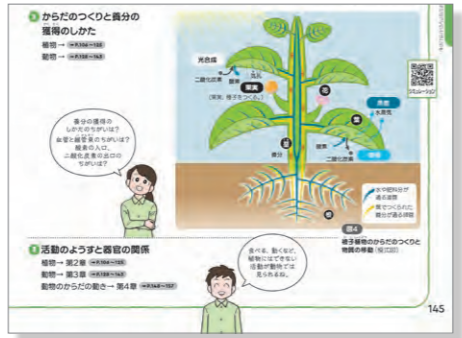
検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(4) 防災教育・減災教育が適切に行えるように配慮されているか。	① 本文の節中コラム「防災特集」では、自然災害のしくみやそれに対してどのように備えればよいかを考えられる内容にすることで、自然災害に対する意識が高まるようにしました。	1年 p.99、218 2年 p.204、221 3年 p.275、289など
	② 1年単元4第1章最終節「火山とともにくらす」と第2章最終節「地震に備えるために」、2年単元3第3章最終節「気象現象をもたらすめぐみと災害」、3年単元5第2章の「自然災害と地域のかかわりを学ぶ」を防災・減災に関する内容として、学習したことと日常生活とを結びつけて考えられるようにしました。	1年 p.204～206、216～218 2年 p.218～221 3年 p.272～275など
	③ 探究の流れを踏まえて本文を左側に寄せ、探究の流れを追いやすくしました。また、観察・実験の手順を縦に配列することによって、操作方法を確認しやすくするとともに、注意事項をはっきり明示することで、安全面まで含めて特別支援教育に配慮しました。	全体 1年 p.127、223 2年 p.38～39、97 3年 p.17など
	④ 本文など主要部分の書体にユニバーサルデザイン書体を使用しました。また、観察・実験の手順やキャラクターのセリフなど、本文以外の部分はできるだけ単語の途中で改行しないようにすることで、読みやすくしました。	全体 1年 p.37、149 2年 p.122～123、181 3年 p.53、205など
(5) 特別支援教育が必要な生徒も学習しやすいうように配慮されているか。	⑤ 単元末の「学習内容の整理」では、全ての漢字に振り仮名を付けることで、学習のふり返りの際につまづかないようにしました。	1年 p.64～65 2年 p.222～223、284～285 3年 p.66～67など
	⑥ 野外観察や生物の観察を通して主体的に自然と関わるなかで、生命の尊さや自然環境の大切さに気づかせ、持続可能な社会について考えられるようにしました。	1年 p.16～17、28～29 2年 p.8～9、100～101、180～183 3年 p.6、264～271など
	⑦ 本文の節中コラム「私たちのSDGs」では、環境に関する話題をとり上げ、第1学年から持続可能性に対する意識が高まるようにしました。その他のコラムで伝統・文化に関する題材もとり上げ、理科を学ぶ有用性を実感できるようにしました。	1年 p.31、181 2年 p.113、199、266 3年 p.179、298、302など
(6) 道徳教育と関連して、国や郷土の伝統や文化を愛する心や、生命尊重・自然環境の保全に寄与する態度の育成が図られているか。	⑧ 巻頭の「探究の流れを確認しよう」や「考察はここをおさえよう」などによって、自然の真理を大切にしようとする態度や、他者の意見を尊重する態度の育成が図られるようにしました。	1年 巻頭③～p.1、4 2年 巻頭③～p.1、4 3年 巻頭③、p.2など
	⑨ 「観察・実験の手順動画」「基礎操作の説明動画」「学習のスタート動画」「シミュレーション」「問題コンテンツ」「Before & Afterシート」「関連する他教科の教科書紙面」「思考ツール」など、QRコンテンツの活用が有効な箇所には二次元コードをつけ、ICTの活用を促すようにしました。	1年 p.259 2年 p.307 3年 p.323など
(7) コンピュータやインターネットなど、ICTの効果的な活用が促されているか。	⑩ タブレット型コンピュータなどを活用しながら学ぶ場面を設けるとともに、「情報を活用して学習を進めよう」というQRコンテンツをご用意し、ICT機器に親しみ、それらの使い方の基礎を身につけられるようにしました。	1年 p.17～18、110 2年 p.52、181 3年 p.291、299など

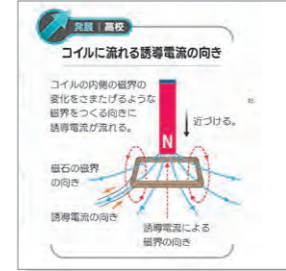
検討の観点と内容の特色

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
	<p>3 「例題(節内)」「学んだことをチェックしよう(章末)」「学習内容の整理(単元末)」「確かめ問題(単元末)」にQRコンテンツをご用意し、CBTへの対応を図りました。</p>	<p>1年 p.61、64~67、81 2年 p.191、283~287 3年 p.177、304~305 など</p>
(8) 自己評価や観点別評価など、学習評価について配慮されているか。	<p>1 単元や章の内容に関する本質的な問いかけ「Before & After」を単元や章の初めと終わりに設定し、学習前と学習後で自分の考えの変容を客観的に捉えられるようにする(メタ認知)とともに、自己肯定感や自己効力感が高まるようにしました。同時に、「主体的に学習にとり組む態度」について評価できるようにしました。</p> <p>2 各学年の巻末には「確かめ問題」の解答とともに、育成を図る資質・能力のどの観点を問う問題かをマークで示し、観点ごとに定着度を把握できるようにしました。</p>	<p>1年 p.139と183、193と206 2年 p.13と81、147と158 3年 p.93と106、247と304など</p> <p>1年 p.254~255 2年 p.302~303 3年 p.317~319など</p>
(9) 人権、多様性、国際理解などへの配慮が適切になされているか。	<p>1 生徒のキャラクターは男女同程度の頻度で登場させ、性別が固定的なイメージにならない服装にするなど、ジェンダーについて配慮しました。</p> <p>2 生徒のキャラクターのなかには外国にルーツをもつ生徒や、車いすの生徒が活動するようすも掲載し、人権や多様性、国際理解について配慮しました。</p>	<p>全体 1年 p.12、87、110 2年 p.66、90 3年 p.10、248など</p> <p>1年 p.112、140 2年 p.14、170 3年 p.128、196など</p>


教科書の構成上の配慮と工夫

指導計画作成上の配慮がなされているか。


検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(1) 単元配列について、指導時期や領域間の関連を踏まえるなど配慮されているか。	<p>1 各単元の学習内容の関連性や教材の入手時期など、配列について適切に設定しました。</p> <p>2 生徒の科学的概念の形成に配慮した配列にしました。</p> <p>3 関連する内容には参照ページを示したマークを付し、どのような順序で指導しても支障がないようにしました。</p>  <p>2年p.145</p>	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>1年 p.90、147 2年 p.144~145、181 3年 p.282、301など</p>
(2) 内容や分量は適正か。	<p>1 総授業時数の9割程度で指導できるように時数配分し、指導計画上無理なく進められるようにしました。</p> <p>2 個々の興味・関心や発想などをいかして、課題を解決していきながら、分量を調整しました。</p>	<p>全体</p> <p>全体</p>

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(3) 発展的な学習内容は適切に扱われているか。	<p>1 発展的な学習内容は発展マークとともに線で囲むことで、必修の内容と明確に区別しました。</p>  <p>2年p.278</p>	<p>1年 p.52、211 2年 p.29、278 3年 p.173、262など</p>
(4) 学習を深め、理解をより確かなものとするためのQRコンテンツが用意されているか。	<p>1 学習内容を補完し、思考力、判断力、表現力の育成や知識及び技能の定着を図るためのQRコンテンツを学習内容ごとに設定しました。</p> <p>2 観察・実験の手順動画やシミュレーション、例題や章末・単元末の問題、思考ツール、Webページなど、多様なQRコンテンツを各学年250個程度をご用意しました。</p>	<p>全体 1年 p.50、76 2年 p.175、246 3年 p.222、300など</p> <p>全体 1年 p.259 2年 p.307 3年 p.323など</p>

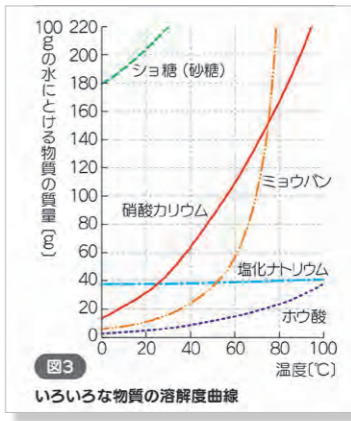

観察・実験を適切に行うことができるように配慮されているか。

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(1) 観察・実験の位置づけは適切か。	<p>1 各節における探究の流れは、観察・実験を中心に展開し、課題を解決するための仮説や構想、結果の分析・解釈、ふり返りといった活動を含め、適切に位置付けました。</p>	<p>1年 p.22~25、232~235 2年 p.50~55、260~266 3年 p.224~227、254~259など</p>
(2) 目的意識をもって主体的に観察・実験を行えるように配慮されているか。	<p>1 観察・実験のページには、観察(または実験)の目的を示す欄を設けることで観察・実験の目的を明確にし、目的意識をもって主体的にとり組めるようにしました。</p> <p>2 観察・実験によっては「別法」をご用意し、さまざまなアプローチから多面的に考えることができるようにしました。</p>	<p>全ての観察・実験 1年 p.37、163 2年 p.117、214 3年 p.17、99など</p> <p>1年 p.87、149 2年 p.111、273 3年 p.57、171など</p>
(3) 観察・実験の結果について適切に分析・解釈、検討・改善ができるように配慮されているか。	<p>1 「結果の見方」や「考察のポイント」によって、観察・実験の結果を分析・解釈する際のヒントを示しました。</p> <p>2 予想に反する結果になりやすい内容では、「解決方法を考えよう」として検討・改善の観点をおさえられるようにしました。</p>  <p>1年p.88</p>	<p>1年 p.77、209~210 2年 p.107、233 3年 p.199、257など</p> <p>1年 p.88 2年 p.52、118 3年 p.59など</p>
	<p>3 巻頭「考察はここをおさえよう」や「議論のしかた」などで言語活動の充実を図るとともに、「私のレポート」で結果と考察を分けて考えられるようにしました。</p>	<p>1年 p.4、38、217 2年 p.18、94、216 3年 p.2、14、273など</p>

検討の観点と内容の特色

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(4) 観察・実験の器具・材料は適切に提示されているか。	① 観察・実験の器具や材料は一般的なものを使用し、短時間で有効に観察・実験を実施できるようにしました。	全ての観察・実験
(5) 基礎的な技能を適切に習得できるように配慮されているか。	① 基礎的な技能に関する内容は「基礎操作」として、手順や操作面での留意事項を丁寧に示しました。	1年 p.17~19、86 2年 p.182~183、247 3年 p.192、312など
	② 観察・実験や基礎操作にはQRコンテンツとして手順や操作の解説動画をご用意し、一人ひとりがくり返し確認できるようにしました。	全体
(6) 事故防止等、安全面・衛生面について配慮されているか。	① 「理科室の決まり」に関する資料によって、全般的な安全指導を行えるようにしました。  1年p.8~9	1年 p.8~9 2年 p.292 3年 p.310など
	② 安全面に配慮する必要がある活動については注意マークを付すとともに、赤字で目立つように注意事項を記述しました。また、注意すべき観点を類型化したアイコンを付すことで、視覚的に認識しやすくなるようにしました。  2年p.38~39	1年 p.3、75 2年 p.38~39、93 3年 p.17、78~79、265~267など
	③ 巻末資料として「主な薬品の性質と取り扱いの注意」をご用意し、注意が必要な薬品について一覧でわかるようにしました。  3年p.311	1年 p.246 2年 p.294 3年 p.311など
	④ 感染症予防のためのQRコンテンツをご用意し、衛生面について配慮しました。	1年 p.7、259 2年 p.7、307 3年 p.5、323など

全ての生徒が使いやすくなるように配慮されているか。

検討の観点	『新編 新しい科学』の内容の特色	該当箇所
(1) 表記・表現は適切か。	① 本文などの主要部分にはユニバーサルデザイン書体を使用することで、読みやすくしました。	全体
	② 色覚に関する個人差を踏まえ、色だけで情報を区別しないようにするなど、一人ひとりが読みやすくなるようにしました。  1年p.111	全体
(2) 印刷は適切か。	③ 第1学年は本文の側注幅を第2、3学年より大きくすることで、発達段階に合わせて資料を読みとりやすくなるようにしました。	全体
	① 環境への影響を考慮し、石油系溶剤を低減した植物油インキを使用しました。 ② 鮮明に印刷することで、カラー写真や生物などの細密図を実物に忠実な再現となるようにしました。  3年p.108~109	全体 1年 p.48~49、55 2年 p.95、150~151 3年 p.108~109など
(3) 用紙、紙質は適切か。	① 再生紙を使用するとともに、表紙は汚れにくくするための防水効果や強度を高める加工を採用しました。	全体
	② 裏のページが透けて文字が読みにくくならないように、不透明度の高い用紙を使用しました。	全体
	③ 本文用紙は品質を保持しつつ軽量化された紙を採用し、生徒の身体的な負担にならないようにしました。	全体
	④ 判型はAB判を採用することで、ゆとりのある紙面構成にしました。	全体
(4) 製本は適切か。	① 高い接着力と耐久性をもつ接着剤で製本しました。	全体
	② 紙のリサイクルをしやすいように、針金を使用しない綴じ方を採用しました。	全体
	③ 印刷業団体が定めた環境配慮基準を満たしたグリーンプリンティング認定工場での印刷・製造しました。	全体